

「備える仙台」

「仙台防災タウンページ」2018年版をご活用ください！



▲ 仙台防災タウンページ 2018

本市では、NTTタウンページ㈱との協定に基づき、「仙台防災タウンページ」を作成し、市内の全世帯・全事業所へ配布しております。
「仙台防災タウンページ」は、地震や津波、大雨災害から身を守るために市民の皆様
に知っていただきたい情報をまとめた冊子で、最新のハザードマップや災害発生時
の避難方法、日頃からの災害の備えなどの学習ページで構成されています。お住ま
いの地域の危険箇所や、防災・減災に関する情報も分かりやすく紹介しています。
このタウンページは、市役所本庁舎1階市民のへや、市政情報センター、各区の区
民生活課でも配布しております。

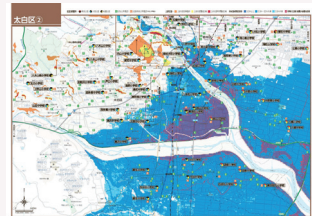
今後起こりうる災害に備えるために、今一度確認してみませんか。

詳細は以下ホームページをご覧ください。

仙台市危機管理室減災推進課

TEL 022-214-3048 FAX 022-214-8096

HP <http://www.city.sendai.jp/anzensuishin/kurashi/anzaen/saigaitaisaku/townpage/townpage.html>



▲ ハザードマップ説明会の様子
(2018年10月)

お知らせ

●「仙台防災未来フォーラム2019」を開催します

震災の経験や教訓を未来の防災につなぐため、市民が防災を学び、日頃の活
動を発信するイベントとして「仙台防災未来フォーラム 2019」を開催します。
4回目となる今回のフォーラムでは、「主役はマルチステークホルダー わたした
ちが知る・行動する 防災の未来へ」をテーマに、セッションやブース展示、
プレゼンテーション等を実施する予定です。皆様のご来場お待ちしております。



▲ 過去のフォーラムの様子(セッション)



▲ 過去のフォーラムの様子(ミニプレゼンテーション)

仙台防災未来フォーラム2019 日 時 2019年3月10日(日)10:00～17:30 (9:30 開場) (予定)
会 場 仙台国際センター展示棟 主 催 仙台市

関連企画 アートコンクール作品募集中!

フォーラムでは、同時開催イベントとして「仙台防災未来フォーラム 2019 アートコンクール」を行います。
より多くの方が防災に興味関心を持ちフォーラムへご参加いただけるよう、防災をテーマにした多様なアート作品を募集します。

応募内容 平面または立体(サイズ制限あり) 募集期間 2019年1月31日(木)まで(郵送の場合は当日消印有効)

出品料 無料(制作・応募費用は応募者負担)

募集テーマ 次のうち、ひとつのテーマを選択し制作してください。①「未来の防災環境都市・仙台」 ②「マルチステークホルダー」
③「災害が起きたら必要なもの」 ④「ビルド・バック・ベター(より良い復興)」

応募部門 ●小学生程度以下の部 ●中学生・高校生程度の部 ●一般の部

表 彰 ・仙台防災未来フォーラム賞 1点:賞状・副賞(図書カード3万円分)
・金賞 各部3点:賞状・副賞(図書カード3千円分) ・銀賞 各部2点:賞状・副賞(図書カード1千円分)

※コンクールの申込方法などの詳細は、以下ホームページをご覧ください。アートコンクール事務局までお問い合わせください。

※仙台防災未来フォーラム賞は、金賞・銀賞の中からフォーラム当日会場内での来場者投票で決定します。

仙台防災未来フォーラム2019 アートコンクール事務局

TEL 022-399-6310 (平日10:00～17:00 祝日・年末年始は除く)

アートコンクールHP <https://sendai-resilience.jp/mirai-forum2019/artconcours.html>

フォーラムの詳細は、ホームページをご覧ください。以下運営事務局までお問い合わせください。

仙台防災未来フォーラム2019 運営事務局 TEL 022-217-7851 HP <https://sendai-resilience.jp/mirai-forum2019/>



経験をつなぎ、そして未来へ
防災環境都市・仙台

発 行 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1
T E L : 022-214-8098
F A X : 022-214-8497
E-mail : mac001605@city.sendai.jp

編 集 株式会社仙台紙工印刷
発行日 2018年10月

▶「えーる」は防災環境都市・仙台ホームページにも
掲載しています。

<https://sendai-resilience.jp>

仙台市の取り組みから、
市民の方々の取り組みまで、より詳しく紹介しています。

▶次号は2月発行予定です。

タブレットでも！
スマホでも！



この印刷物は「再生紙」を使用しています。

防災環境都市・仙台ニュースレター

「伝える」「繋げる」「備える」を応援する
防災環境都市・仙台の市民情報誌です。

仙台市では、「杜の都」の豊かな環境を活かしながら、防災力のある
まちをつくり、ひとをはぐくむ「防災環境都市づくり」を進めています。
「えーる」では、防災・減災や環境に関わるさまざまな分野で活躍する
“ひと”に注目し、その取り組みを紹介していきます。

2018 No.9
テーマ
防災の未来を担う
学生の取り組み

表紙インタビュー
伝える仙台

宮城学院女子大学 生活科学部 食品栄養学科
ボランティア団体
Food and Smile!

左から副代表 熊谷里帆さん、代表 佐藤いづみさん、会計 菊田美穂さん

災害時の食を、美味しく、楽しくするレシピの提案。

「Food and Smile! (フードアンドスマイル)」は、
「食を通じて人々を笑顔に!」をコンセプトに活
動しているボランティア団体です。メンバーの
ほとんどが東日本大震災を経験しており、その
体験も踏まえて避難所や家庭にある食材で作
る災害食レシピを考案しました。水・電気・
ガスを極力使わず、簡単に調理できてアレンジ
しやすいものや、小さなお子さんや高齢の方
にも美味しく・楽しく食べられるように工夫し
たものなど、大学で学んだ栄養学の知識を生か
し、皆で意見を出し合いながら何度も試作を繰
り返しています。

私たちが宮城県内外で開催している地域防災料
理教室では、いざという時に役立つ調理技術をは
じめ、食品の備蓄方法や災害時の栄養管理など
についても伝えています。今年6月に開催された
みやぎ防災・減災円卓会議主催の「防災運動会」
で参加者に提供した、洗い物がほとんど出ない
「切干大根サラダ」や、乾パンをアレンジした「乾

パンかりんとう」などのサバメシ^{*}は大好評でした。
震災時でもひと工夫することで、美味しく楽し
い食事ができることを、皆さんに伝えていきたく
です。また、料理教室を通して参加者の方から
より簡単にできる調理方法を教えていただいたり、
小学生や高校生、親子連れに参加してもらうなど、
様々な世代の方との交流も生まれています。

昨年度は、現在4年生の先輩が「仙台若者アワ
ード」で私たちの活動を発表し、優秀賞を受賞し
ました。今年の8月には、長岡京市での避難所
宿泊体験イベントで災害食を提供したほか、避
難所での離乳食づくりを生かし、カンボジアで
離乳食を広めるプロジェクトに参加し国際貢献を
行うなど、活動の場が大きく広がってきています。
今後も、災害や備蓄について日々の学びを深め、
より簡単なレシピの開発をしていきたいです。
また、災害食を通して、震災を知らない世代の
子どもたちにも私たちの経験や食の大切さ、
防災の知識を伝えていきたいです。



▲ みやぎ防災・減災円卓会議主催「防災運動会」
で災害食を提供(2018年6月)



▲ 長岡京市での避難所宿泊体験イベントの様子
(2018年8月)



^{*}サバメシ
災害時に防災食などか
ら簡単に作れる非常食
「サバイバル・メシ」の略。

宮城学院女子大学 生活科学部 食品栄養学科「Food and Smile!」

管理栄養士や栄養教諭など食と健康のスペシャリストを養成する生活科学部 食品栄養学科の1年生から
4年生、23名が活動する、学生が自主的に企画・活動するボランティア団体。「食を通じて人々を笑顔に!」
をコンセプトに、災害食のレシピ開発や地域防災料理教室の開催などさまざまな活動を行っている。
TEL 022-279-1311 ホームページ <http://www.mgu.ac.jp/>



テーマ・インタビュー 繋げる仙台

心に寄り添う支援活動を、 次世代につなぐ大きな使命。

東北学院大学災害ボランティアステーションで活動するお二人に、震災から7年を経過して多様化する被災地での支援活動の内容や全国の大学との連携、そして未来へ引き継ぐ被災地への思いについてお話を伺いました。

東北学院大学災害ボランティアステーション
学生スタッフ 代表

河原 颯さん(左)

東北学院大学 教養学部 地域構想学科2年
塩電市出身

東北学院大学ボランティアステーション
学生スタッフ

佐藤 拓未さん(右)

東北学院大学 経済学部 経済学科1年
白石市出身



▲ 漁業支援の様子 (石巻市牡鹿地区小湊浜)



▲ 仮設住宅にお住まいの方との交流イベントの様子 (気仙沼市)

被災地のニーズに合わせた、さまざまな活動

—— 現在の活動内容を教えてください。

河原 災害ボランティアステーションには50名ほどの学生が在籍し、主に1・2年生が中心になって活動しています。震災当初は、被災地の汚泥除去や屋外清掃、思い出の品探しが主でしたが、津波被害の大きかった地域の整備が進み、被災地のニーズも変わってきて、現在は被災者の方の心の復興や地域再生に向けた活動を行っています。石巻市牡鹿地区の小湊浜での漁業支援、山元町のやまもと夢ファームでの農業支援、七ヶ浜町の学校支援に関わる絵本の読み聞かせ、石巻市雄勝地区のローズファクトリーガーデンの花壇整備などの支援プロジェクトがあり、私が参加している気仙沼プロジェクトでは、主に仮設住宅にお住まいの方とのクリスマス会といった季節に合わせた交流イベントなど、心の復興を目指した活動を行っています。

佐藤 週1回行っている全体会議では、プロジェクト毎に各地で行うボランティア活動の企画・運営について話し合います。災害ボラン



▲ 週1回の全体会議後の、プロジェクト毎の話し合いの様子

ティアステーションは大学との連携が強い組織なので、スタッフの責任感や活動に対する意識も高いと思います。備品や食料の備蓄も含め、ボランティア体制も整っていて、今年発生した平成30年北海道胆振東部地震や平成30年7月豪雨での災害にも迅速に対応できました。

被災地への思いを繋ぐ、責任とやりがい

—— 活動を通して、どんなことを感じますか。

河原 震災から7年が経過し、薄れてきている人々の被災地への関心を、つなぎとめていく責任の重大さを感じています。被災した方の状況もさまざまですが、「若い人と話せて嬉しい、ありがとう」と言って、ご年配の方に涙を流して喜んでいただいた時は、心を打たれました。ちょっとした何気ない会話のような、ささやかな交流をすることで人々の心に届くのだと感じました。

佐藤 私も実際に被災地へ足を運んでみて、報道されていないだけで、まだまだ復興途上にある所がたくさんあることに驚きました。また、ボランティアのニーズも変わってきており、泥かきや片付けのお手伝いだけではなく、被災した方たちとの交流も、大切なボランティアだということに気づきました。

河原 毎月1回の気仙沼での活動は、回を重ねるごとに「やって良かった」という思いが強くなり、地域の皆さんの温かさにも触れて、大きなやりがいを感じています。

全国の大学との連携と、未来へ繋ぐ使命

—— これからどんな活動をしていきますか。

河原 私たちの団体は、市町村の災害ボランティアセンターや全国の大

学と連携し、被災地の支援活動の橋渡しの役割を担っています。毎年夏に開催している「夏ボラ」は、被災地に泊まりながらボランティア活動をするイベントです。他大学の方に被災地の現状を肌で感じてもらい、地域の魅力を知ってもらえる機会となっています。また、毎年冬に仙台で開催している「大学間連携災害ボランティアシンポジウム」には、大学間連携災害ボランティアネットワークを通して全国から多くの大学生が参加し、ボランティアに関する議論や情報交換を行っています。他大学の皆さんとの交流は今後も続けていきたいですね。

佐藤 私は今年初めて「夏ボラ」に参加したのですが、他大学の皆さんと関わる中で、こうした活動の企画・運営はもちろん、被災地への思いを先輩たちから引き継ぐこと、これからの後輩にも伝え継続していくことがとても大切だと実感しました。またSNSなどのツールを活用して、被災地や自分たちの活動を発信することも重要だと思います。

河原 震災後に生まれた世代にも、甚大な被害があった地域のことや私たちの活動、そして被災地の現状や魅力を知ってもらうことが、私たちの使命だと思います。ボランティア活動を始めてから、気仙沼がとても好きになり、プライベートでも何度も行くようになりました。被災地のニーズを重視しながらも、新しい企画にも挑戦しボランティア活動を充実させ、未来へと引き継いでいきたいです。



コラム

知ってみよう!

学べる仙台

自分たちの町は自分たちで守る 仙台市の消防団の活動

仙台市内には7つの消防団があります。消防団員は火災、風水害等の災害防衛活動や火災予防等の広報活動に従事する特別職の地方公務員です。2018年10月1日現在、2016名の消防団員が地域の安全・安心のために活躍しています。



▲ 消防団員活動の様子

今年4月に「仙台市学生消防団員認証制度」がスタートしました。この制度は、消防団活動に継続的に取り組み、地域社会に貢献した大学生等の功績を認証するもので、就職活動の際には、その功績を企業等にアピールすることができます。6月には大学生4名に仙台市長から認証状が交付され、学生消防団員は、「大学の活動との両立は時間的に大変でしたが、避難訓練で小中学生に防災を教える活動を楽しくできました。来年4月に就職しても消防団員として活動したいです。」と意気込みを語りました。学生の消防団員数は4月には12名でしたが、10月には31名となっています。



▲ 学生消防団員認証状交付式

東日本大震災をはじめ、近年各地で発生する地震や豪雨災害など、消防団活動の重要性がますます高まっています。地域奉仕の精神で一緒に消防団活動をしてみませんか。

詳細は以下までお問い合わせください。

仙台市消防局総務課

TEL 022-234-1111 FAX 022-234-1120

メール syo018010@city.sendai.jp

HP <http://www.city.sendai.jp/shobodan/kurashi/anzen/shobo/shobokoku/shobodan/katsudo.html>

地域の安全・安心を
ありがとう!



平成30年度大学間連携災害ボランティアシンポジウム 「災害の時代と大学、そしてボランティア」を開催します

申込不要、入場無料となっております。
災害やボランティア、防災・減災に関心のある方は是非お越しください。

日時 2018年12月15日(土) 10:50~16:30(終了予定)

会場 東北学院大学土樋キャンパス
ホーイ記念館ホール(地階)

共催 東北学院大学災害ボランティアステーション
復興大学災害ボランティアステーション
大学間連携災害ボランティアネットワーク



▲ 昨年度シンポジウムの様子

- 開会
 - 基調講演 「災害の時代と大学、そしてボランティア」
登壇者 室崎 益輝氏 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 研究科長)
 - リレートーク 「学生ボランティア活動紹介と課題の発表」
 - 学生によるパネルディスカッション 「災害における学生ボランティアの意義」
コーディネーター 杉浦 健氏 (共働プラットホーム ボランティアコーディネーター)
 - 閉会
- ※ホールのエントランスにおいて、各大学の「活動紹介パネル展示」を行っています。
※閉会後、引き続き「学生間ワークショップ」を開催します。
- 時間 17:00~19:00 会場 ホーイ記念館 2階H203教室

シンポジウムの詳細は、以下事務局へお問い合わせください。

大学間連携災害ボランティアネットワーク事務局(東北学院大学災害ボランティアステーション事務局内)

TEL 022-264-6521 FAX 022-264-6522 E-mail tgvolu@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

東北学院大学災害ボランティアステーション

東日本大震災後の2011年3月29日に発足。災害ボランティアセンターと協力し、学生と被災者をつなぐことを目指して活動を開始。その後は被災者からの支援要請を受けて汚泥除去や屋外清掃他、支援要請のマッチングなどに対応。震災から7年が経過した現在は、被災地のニーズに合わせた活動とともに全国の大学と連携した支援活動の中継を担う。

TEL 022-264-6521(土樋キャンパス) ホームページ <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/volunteer/>